

イネ品種間におけるアレロパシー活性評価のための生物検定法の検討

松尾光弘*・福澤功一・寺尾寛行・小川紹文（宮崎大学農学部）

イネ品種間におけるアレロパシー活性の差異が明確に評価できる生物検定法を確立するために、3種類の検定法についてこれまでの評価と比較検討した。Relay seeding box 法および黒ポリポットによる検定法では、これまでにアレロパシー活性が高いとされている品種について検定植物（レタス、コナギおよびホソバヒメミソハギ）に対する影響が異なり、またそれら植物の地下部器官に対する影響も異なっていた。一方、培養液による検定法において、検定植物に対して阻害活性の高かったイネ品種が、アメリカでの圃場検定により活性が高いとされた品種と一致したことから、有望な生物検定法であると判断できた。